

〔科目名〕 現代仕事論	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 専門科目
〔担当者〕 赤坂道俊	〔オフィス・アワー〕 時間: 講義終了後、昼休み 場所: 講師控え室	〔授業の方法〕 講義方式
〔科目の概要〕 仕事(労働)をすることは人間の基本的な営みである。だが、そのあり方は、経済・社会システムの変化と、それに伴う企業環境や労働環境の変化と共に変容してきた。日本の労働環境は戦前と戦後で大きく変わったが、戦後においても、高度経済成長とその終焉以降、労使関係や国の政策の変化(福祉国家の修正、市場原理主義の台頭、規制緩和の拡大等)によって労働環境は変容し、1990 年のバブル経済の崩壊後にそれはさらに大きく変化した。 今日では、ITC 技術革新や交通革新が企業活動のグローバル化を加速させたが、これと、新興国の経済発展は企業間競争を激化させ、国による労働分野の規制改革にも後押しされて、雇用は多様化した。今日では、戦後高度成長期に形成された日本の雇用慣行は大きく変容し、非正規雇用の増大とそれに伴う新たな雇用格差が生まれ、戦前の会社の中における身分制が復活し、格差社会が拡がりつつある。人々の働き方、企業の「働かせ方」には大きな変化が生じている。 本講義では戦後日本の雇用慣行の形成とその変容、1970 年代以降の労働分野の規制緩和と雇用の多様化、非正規雇用の増加とその問題点、労働者派遣業の解禁とその問題点、正規社員の絞り込みとホワイトカラーの労働環境の変化等について講義し、現代日本における仕事(労働)のあり方について考えていく。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 1. 雇用、労働のあり方は現代社会の中心的问题であり、経営学、経済学における中心的テーマの一つでもある。 2. 現代社会は企業社会でもある。労働・雇用問題を学ぶことは現代社会の核心を認識することにつながる。 3. 多くの学生は卒業後、企業で働く。企業で働き、社会人になる学生諸君が自らの立場と「働くことの意味」を認識することは重要である。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 1. 企業社会における労働のあり方と働くことの意味を知る。(最終目標) 2. 日本の雇用慣行の変容と労働者の状況の変化を知る。 3. 現代日本の雇用の多様化＝非正規労働の増加と課題について学び、女性労働の社会的課題について学ぶ。 4. ホワイトカラー労働者の状況と「過労死」問題について学び、あるべき働き方について考える。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 1. 専門的な事項、用語について丁寧な説明を心がける。 2. 講義の重要ポイントについて理解されたかどうかその都度、確認する。 3. レポート課題、小テストを実施し、学生諸君の自主学習を促す。		
〔教科書〕 講義プリントを配布する。		
〔指定図書〕 講義の際に紹介する。		
〔参考書〕 ①野村村正美『終身雇用』岩波書店、1994。②森岡孝二『貧困化するホワイトカラー』ちくま新書、2009 年。③森岡孝二『雇用身分社会』岩波新書、2015 年。④熊沢誠『能力主義と企業社会』、1997 年。⑤森岡孝二『働き過ぎの時代』岩波新書、2005 年。⑥ロナルド・ドーア『誰のための会社にするか』2006 年、岩波新書。⑦戸塚他編『現代日本の労働問題』ミネルヴァ書房、1993 年。		
〔前提科目〕 経営学、経済学。		

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 期末テストの成績と課題レポート、小テストの成績で評価する。	
〔評価の基準及びスケール〕 期末テストの成績(80%)と課題レポート、小テストの成績(20%)で評価する。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 労働社会を取り巻く「現実」や「現象」の本質を明らかにするように講義したい。 学生諸君には物事を深く考える習慣を身につけて欲しい。新聞やTVのニュースを見る習慣を身につけ、経済、企業経営、雇用、労働者の現状に関心を持って欲しい。	
〔実務経歴〕 なし	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): 講義ガイダンスと日本的雇用慣行とその変容 内 容: 講義のガイダンス(講義の目的、概要、評価などの説明)。 社会の発展と労働観の変化。日本的雇用慣行とその変容。 教科書・指定図書: 上記、参考文献を参照。
第2回	テーマ(何を学ぶか): 日本的経営と三種の神器 内 容: 終身雇用、年功賃金、企業別組合。終身雇用の再定義。 教科書・指定図書: 上記、①、⑥の参考文献の他、佐藤光『入門日本の経済改革』PHP新書、1997年も参照。
第3回	テーマ(何を学ぶか): 戦前日本の労働者の状態と戦後「労働改革」 内 容: 戦前(1945年以前)の労働者の状態。「戦後改革」と労働三法の制定。高度経済成長と終身雇用。 教科書・指定図書: 上記、参考文献の他、戦前については中村正則『労働者と農民』小学館、1990年も参照。
第4回	テーマ(何を学ぶか): 戦後日本の労働者の状態: 大企業の雇用慣行と中小企業の雇用慣行 内 容: 大企業と中小企業の雇用慣行。下請制度と企業規模別賃金格差。 教科書・指定図書: 上記、参考文献、特に③、⑦を参照。
第5回	テーマ(何を学ぶか): 1973年石油危機と低成長-雇用の流動化: 非正規労働の増加とパート労働の状況 内 容: 低成長と雇用流動化=非正規労働の増加。経団連の雇用政策。雇用形態の多様化と雇用の不安定化。パートはどのように増えてきたか=パート労働の状況。 教科書・指定図書: 上記、参考文献を参照。特に①、③を参照。また、中野麻美『労働ダンピング』岩波新書、2006年も参照。
第6回	テーマ(何を学ぶか): 低成長と非正規労働の増加とパート労働、女性の労働の状況 内 容: 正規・非正規(パートタイム)の賃金格差。日本的性別分業とM字型カーブ。性別賃金格差と課題。 教科書・指定図書: 上記、参考文献を参照。特に②、③を参照。

第7回	テーマ(何を学ぶか):雇用の規制緩和と派遣労働 (その1) 内 容:戦前の「派遣業」＝口入れ屋、手配師と女工。今日の派遣会社と派遣労働者。戦後労働改革と労働者供給事業の禁止。労働分野の規制緩和-労働者供給事業の解禁。 教科書・指定図書:上記、参考文献を参照。特に③を参照。また、戦前については、前掲、中村『労働者と農民』と犬丸義一校訂『職工事情』(上)岩波文庫、1998年が有益。
第8回	テーマ(何を学ぶか):雇用の規制緩和と派遣労働 (その2) 内 容:1980年代半ば以降の雇用の規制緩和と派遣労働 遣労働解禁の背景。平成不況とリーマンショック下の派遣切り、派遣労働の問題点の表面化。 教科書・指定図書:上記、参考文献を参照。特に③、⑦を参照。
第9回	テーマ(何を学ぶか):雇用の規制緩和と派遣労働 (その3) 内 容:雇用関係からみた派遣という働き方。労働者派遣制度の本質的特徴。派遣労働:「登録型」と「常用型」。非正規労働者・派遣労働者の「2018年問題」。 教科書・指定図書:上記、参考文献を参照。特に③を参照。
第10回	テーマ(何を学ぶか):低成長と日本的雇用慣行の変容-正社員の絞り込みと長時間労働 (その1) 内 容:低成長と労働の規制緩和(雇用流動化)＝非正規労働の増加と正社員の長時間労働。労働時間の制限と短縮の歴史。日本の労働時間規制の歴史。 教科書・指定図書:上記、参考文献を参照。特に⑤を参照。
第11回	テーマ(何を学ぶか):低成長と日本的雇用慣行の変容-正社員の絞り込みと長時間労働 (その2) 内 容:市場原理主義と規制緩和論。財界の雇用政策。 教科書・指定図書:上記、参考文献を参照。特に⑤、⑦を参照。
第12回	テーマ(何を学ぶか):労働時間規制と規制緩和 内 容:現行の労働時間規制と現状。労働時間の規制緩和の歴史。変形労働時間制、裁量労働時間制 教科書・指定図書:上記、参考文献を参照。特に⑤、⑦を参照。また、八代尚宏『雇用改革の時代』中公新書、1999年も参照。
第13回	テーマ(何を学ぶか):現代日本のホワイトカラーの状態 内 容:ホワイトカラーは増えているか。成果主義の導入。過労死と労災認定。 教科書・指定図書:上記、参考文献を参照。特に②、⑦を参照。また、熊沢誠『能力主義と企業社会』1997年、同『働き者たち泣き笑顔-現代日本の労働・教育経済社会システム』有斐閣、1993年も参照。
第14回	テーマ(何を学ぶか):ホワイトカラーと過労死問題 内 容:過労死と過労自殺。過労自殺とホワイトカラー。教師の労働環境の悪化とうつ病。医療現場の長時間労働。 教科書・指定図書:上記、参考文献を参照。特に②を参照。また、川人博『過労自殺』岩波新書、1998年も参照。
第15回	テーマ(何を学ぶか):現代日本の労働、雇用の課題-講義のまとめ 内 容:正規労働者の課題。非正規労働の増大と最低賃金制度の役割。 コロナ渦の労働＝雇用へのインパクト。テレワークと「JOB型労働」の検討と評価。 教科書・指定図書:上記、参考文献を参照。佐藤彰男『テレワーク「未来型労働の現実」』岩波新書、2008年も参照。
試験	試験期間(最終講義日)に筆記試験を実施する。持ち込み不可。試験時間:60分。